2017 年度 事業報告書

一般社団法人 こどものホスピス・プロジェクト

一般社団法人　こどものホスピスプロジェクト

〒538-0035　大阪市鶴見区浜 1 丁目 1-77
あそび創造広場　TSURUMI こどもホスピス
TEL 06-6991-9135　　FAX 06-6991-9136
Email: info@childrenshospice.jp
http://www.childrenshospice.jp

一般社団法人　こどものホスピスプロジェクト　：　TSURUMI こどもホスピス

＜はじめに…2017 年度の重点として＞

TSURUMI こどもホスピス(TCH)は、生命を脅かす病気（LTC: Life-threatening Conditions）とともに生きる子どもとその家族が、そして、私たち地域社会の一人ひとりが、生命の尊厳について考え、子どもが大事にされる地域社会をつくろうと願い、地域における小児緩和ケアを実践する場の一つになることをめざし、2016年4月にオープンしました。2017 年度は、以下の3つに重点を置き、様々な取り組みを一つひとつ進めることができました。

①基幹病院との連携を強化

LTC の子どもたちをより充実したケアに結びつけるためには早期から関わりが必要です。そこで、医療機関との連携を強化できるよう、大阪市立総合医療センターの医療者や他大阪府内の病院を中心に、子どもホスピスの紹介や調整を進めました。また、TCH の来館が難しい子どもに対してはスタッフが訪問するなど、個別に対応できる態勢づくりを大事に取り組みました。

TCH2017 at a glance　～2017 年度の TSURUMI こどもホスピスの1年

②登録世帯の増加と宿泊活動の開始

昨年度は 63 世帯にメンバー登録いただき、17 年度は 100 世帯を目安に受け入れを継続。新規 26 世帯がエントリーし 89 世帯になりました。宿泊の希望に添えるように、個別・集団で、17 家族が TCH での宿泊を体験。「家族でのお泊りは初めて」というご家族にゆったりとした時間や家族の思い出を作っていただきことができました。

③マンスリーサポーターの獲得とファンドレイジングの強化

2017 年1月から本格的にマンスリーサポーターの拡大募集を開始。大阪マラソンチャリティ活動も、様々な関係者の協力を得て、寄付の拡大につなげていきました。

世界水準のこどもホスピスを目指す取り組みとして

●友として関わる（Friendship）

●病院ではなく家である（Home from home）

●地域に根差した自発的な活動（Local Initiative）

●財源を寄付による慈善活動である（Free standing）

9月　10月　11月　12月　2018年1月　2月　3月

１・子どもホスピスケアの取り組みとして

TSURUMI こどもホスピス（TCH）は、生命を脅かす病気（LTC）とともに生きる子どもとその家族が、そして、私たち地域社会の一人ひとりが、生命の尊厳について考え、子どもが大事にされる地域社会をつくろうと願い、それを実践する場の一つを目指しています。他の子どもやご家族の様子、経験を分かち合う機会を通じて、自らが感じたり、気づきを得る場であってほしい―そんな取り組みを一つひとつじっくりと進めています。

1）募集（広報）＆エントリー

①エントリー手続きに関して

2017 年度は、メディアや自主媒体を通じ、お問い合わせや医療関係者からのご紹介等で、以下のような手順を踏まえ、メンバーエントリーや手続きを行ないました。

①問い合わせ…電話やメール等でスタッフが問い合わせに対応。

②見学、エントリーの説明…個別見学や集団での説明会などで、ご利用方法について説明し、ご家族記入用、医師記入用の2種類のエントリーシートを提出し、登録手続きに進む。

③仮利用、承認委員会審査、そして登録へ…エントリーシートから、病気の子どもの状態や見守るご家族の状況を踏まえ、審査を行った。

④メンバーの承認を確定し、正式に利用を開始する。

2016 年度継続メンバー	63 世帯	
2017 年度新規メンバー	26 世帯	
2017 年度 TCH 利用メンバー	89 世帯	
2017 年度退会メンバー	14 世帯	
次年度メンバー	75 世帯	（うち、15 世帯はご遺族）

②メンバーの状況や年齢分布

③医療機関との連携の模索

LTC の子どもとそのきょうだい・親に対し、広く、積極的な受け入れを実施。状況が厳しい子どもが診断まもない時期から TCH を利用していただけるよう、大阪市立総合医療センターに定期的にケアスタッフが訪問し、潜在的な利用者層がアクセスしやすい工夫を実施。今後、手厚いパーソナルケアを進めていくことができるよう、医療関係者とのコミュニケーションの充実に努め、この点を強化していきたいと考えています。

2）ケアプランとケア活動の概要

①メンバーの利用とその利用区分について

TCH の利用については、利用優先区分をベースにケア活動を実施。2017 年度はカテゴリーⅠⅡの子どもがエントリ

ー対象となり、メンバーとなったⅠⅡの子どもや家族にパーソナルケア活動を提供しています。

【利用優先区分】

Ⅰ	緊急期	予後が極めて厳しい
Ⅱ	急性期／不安定期	予後が明確でないが、非常に不安定な病状・治療中である。または、早期に亡くなる可能性が高い
Ⅲ	慢性期／安定期	予後予測が困難な疾患・状態だが、現在は身体症状が安定している

②パーソナルケア活動について

子どもの入院生活では、きょうだい、家族との生活が著しく分断され、その環境の変化は子どもの成長発達や心に大きな影響を及ぼします。病気、病状とは関係なく、家族と一緒に過ごせる場所、それが私たちのホスピスの大きな特徴です。そのため、平準化されたプログラムが不向きであり、個別な内容（パーソナルケア）を基本としています。メンバーの子どもと家族の「個別ニーズ」や「本人の発意」を受けとめ、メンバー（登録したご家族）にとっての「やりたいこと」「実現したいこと」が一つでも多くできるようなケアを実践しています。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11 月	12 月	1月	2月	3月
日中	4	10	16	24	12	10	7	7	10	12	15	19
宿泊	0	0	1	5	1	1	5	5	0	0	0	0
訪問	0	0	10	5	2	1	0	3	5	4	7	4

□デイユース

子ども自身がやりたいことや、その子らしく過ごすことを一番に考え、家族でどのような時間にしたいかを家族と一緒に考え作っていく時間です。病気と闘い治療をしている子どもたちが、その合間にホスピスに遊びに来てくれる風景が数多く見られました。過ごし方は様々で、「遊んで、お風呂に入って、ご飯を食べて帰る」という、当たり前の日常を家族と一緒に過ごしに来られる方や、仲のいいお友だちと一緒に利用する子、お誕生日会や七五三のお祝いなど、特別な記念日を TCH で過ごしたいと希望されるご家族など、ご家族ごとの思いの詰まった時間がありました。「つるみりょくちは、しんどくてもこれるばしょ」と言ってくれる子、帰りたくないと言って駄々をこねる子、もいました。そんな子どもたちの姿を嬉しそうに眺めている親御さんの姿がたくさん見られました。

□宿泊活動

病状が重い子どもも家族みんなで自宅や病院以外でのお泊りを経験できるよう、宿泊活動を開始。集団系の宿泊としては、TCH キャンプも実施。ご家族ごとに家族同士のゆったりとした時間を過ごしていただきました。

病院と自分の家、小さなつながりと、限られた範囲の中で生活している子どもとご家族の「お泊り体験」。初めて家族そろって公園を散歩したり、初めてのスーパーマーケットで買い物をした後、家族そろってハウスに泊まる。初めて尽く

しの体験に、家族はドキドキしながらも、少しだけ自信を持つことができました。個別なお泊りは、子どもにとって、家族にとって、これからの時間を大切に生きるための一歩や、かけがえのない思い出と体験の時間になりました。

集団宿泊として行った親子キャンプは、キャンプというほどワイルドではなく、テントに泊まったり、みんなでご飯を作って食べたり、あたり前のキャンプに参加できないからこそ、新しい友だちとの出会い、交流の機会としてのキャンプ感を味わえる機会になりました。初めてのテント体験に「とっても楽しかった」という声をたくさんいただきました。

□訪問活動

今だから TCH に行ける、そんなタイミングでホスピスを利用してきた子どもたちが、入院や病状の進行によって、だんだんハウスに来られなくなることがあります。TCHをご利用される中で、病状や体調の変化により TCH に来館できない子どもの入院先やご自宅に訪問し、本人の好きな遊びを一緒にしたり、やりたいことを叶えたりするのが訪問活動です。「ホスピスに行きたい」でも、入院して行けなくなった時、スタッフが病院へ子どもに会いに出かけました。手づくりのおもちゃや、その子の好きな絵本を持って、少し調子がよければ、病室で一緒に遊ぶこともありました。子どもが「会いたい」と言ってくれたことで、急遽会いに行くことが決まる、そんな臨機応変な対応を大事にしたいと思います。

③ゾーンプログラムやメンバーイベントの実施

メンバーの子たちの年齢や関心に合わせ、少人数のグループで活動するゾーンプログラムを実施。子どもの成長発達を支え、親同士の交流などの分かち合いの場など、様々な設定をメンバーと一緒に考えながら進めました。

TCH のイベントは、地域一般の子どもや市民を含めた不特定多数が参加するイベントや公共の場での催し物に参加することが困難な子どもたちにとって、安心して家族みんなで楽しめる特別な体験ができるようにしています。

ゾーンプログラム名	開催日	世帯数	子ども	大人
乳幼児ゾーン	5～12 月（月 1～2 回）	43	63 名	57 名
学童ゾーン	4 月～12 月（月 1 回）	36	43 名	46 名
宿泊キャンプ（ダイワハウス助成）	7、10、11 月	15	30 名	25 名
メンバーイベント名	開催日	世帯数	子ども	大人
スプリングコンサート	4/15	13	24 名	34 名
ユニクロ一日店長（ユニクロ協力）	7/1	3	4 名	4 名
TCH 夏あそび （大芸大協力）	8/18,19	13	22 名	21 名
ユニクロ一日店長（ユニクロ協力）	9/30	4	8 名	7 名
メンバー交流会	9/24	6	11 名	8 名
TCH 秋祭り （大阪リバーサイド RC 協賛）	10/15	19	37 名	30 名
移動動物園 （ダイワハウスエンドレス募金助成）	11/5	21	48 名	30 名
クリスマスパーティー	12/23	20	38 名	38 名
フランス人ピエロイベント（阪急うめだ店協力）	3/4	10	14 名	15 名

3）遺族ケア（ビリーブメントケア）に関する取り組み

□ビリーブメントケア（遺族ケア）の取り組みとして

お子さんを亡くされたご遺族の深い悲しみに寄り添い続ける、思い出の場所としてあり続けることが、TCH の本質的意味の一つです。子どもを亡くされたご遺族は15組おられます。「（ホスピスに行く）楽しみな日があるから、そこを目指して頑張って生きていこうと思える」子どもを亡くされたご両親とお子さんの写真を見ながら想い出を語り、泣いたり笑ったりしながら過ごす時は、ご遺族だけでなくホスピススタッフにとっても心が癒される時間でした。

□遺族支援チーム「ビリーブ」の取り組み

イベント名	開催頻度	参加者数
ビリーブのじかん	10 回開催	53 名

最愛のお子さまを見送られたご家族に、同じ体験を持つグループメンバーがピアボランティアとして「友のように」寄り添うことを目的としたCHPビリーブメントグループです。2017 年度も引き続き「訪問・面談活動」を 11 回（ご自宅 3 件、TCH 3 件、その他 1 件、電話 4 件）、「ビリーブのじかん」（語らいの時間）を 10 回開催しました。

２・広場活動としての取り組み（あそび創造広場活動の推進）

TCH がある「あそび創造広場」は、子どもたちの創造性と協働性を育む、遊びと憩いの場です。子どもを心から大切に想う、ゆったりとした広場でありたいと考え、地域に開いた様々な活動を実施しました。

1）各種地域向けの取り組み

① 地域イベントとしての取り組み

□子ども・ファミリーイベント

同じ世代の子どもたちが同じ経験ができるよう、そして、地域に開かれた子どもホスピスとなるように、あそび創造広場としての子どもやファミリー向けイベントを開催。また、実施にあたっては、団体や体験活動の講師など団体やスペシャルスキルボランティアにご協力をいただいています。

イベント名	開催日	世帯数	子ども	大人
みんなで水遊び！	7/2	11	16 名	13 名
TCH 夏あそび （大芸大協力）	8/18	8	13 名	13 名
TCH 秋祭り（※メンバー家族 17 世帯 50 名を含む）	10/15		90 名	
移動動物園 （ダイワハウスエンドレス募金助成）	11/15	140	333 名	

□地域向け啓発イベント、場の解放

TCH を取り組む社会課題の周知・啓発、地域社会のあり方を考えるきっかけになるよう、地域向けの様々な活動を開催しました。

イベント名	開催日	参加者数
1周年写真展 ～Beside You：いつもそばにいるよ～	5/5-5/6	211 名
医療者向け TCH 報告会＆見学会	9/9	19 名
秋のオープンデイ	10/14	54 名
子どもをめぐる医療を考える講演会	10/14	26 名
サポーターズカフェ	概ね月1回	98 名
ボランティア☆タイム	4月～9 月まで毎月1回	29 名
ふらっとカフェ（定例）※場の解放	毎週金曜午前（祝日除く）	47 名
見学・視察	1～3月を中心に	340 名

② 「広場」連携プログラム

2017 年度より、子どもたちの創造性と協働性を育むことを目的とした様々な企画を外部より募集し、セミパブリックエリア（つるみカフェ、おおきな部屋、みんなの中庭）を利用できる「『広場』連携プログラム」を実施。初年度である 2017 年度は19回の企画を開催いただきました。

主催団体名	企画内容	開催日	参加者数

プティパの会	肢体不自由児の家族どうしの交流会	7/1, 8/21	59 名
おやこの KIZUNA プロジェクト	手形アート(七夕の日、敬老の日)	7/7, 9/8	8名
	ベビーマッサージ	8/4	13 名
	おむつなし育児のおはなし会	11/17	19 名
	ママ向けメイク講座	1/19	3 名
	赤ちゃんの抱っこ講座	2/5	8 名
	親子の個性とコミュニケーションについて学ぶ	3/16	15 名
NPO 法人しぶたね	病児のきょうだいでたこ焼きパーティー	8/5	3 名
ひといろプロジェクト	じぶんいろのバンダナづくり	8/5	17 名
えんとつ町のプペル奈良実行委員会	クラウンとの遊びと、絵本の読み聞かせ	8/25	7 名
スマイルプロジェクト	こどもどうしでの遊び	11/3	20 名
一社)ソーシャルギルド	ファンドレイジング勉強会	1/8	12 名
鶴見区子ども・子育てプラザ	赤ちゃんのやわらか抱っこ講座	1/26	30 名
NPO 法人チャイルド・ケモ・ハウス	病児のきょうだいのあそび場	2/3	4 名
NPO 法人ジャパンハート	病児のきょうだいと親子のコーヒータイム	2/11, 3/3	26 名
一社)こども感動体験プロジェクト協会	紙芝居を聞く＆つくってみるワークショップ	3/17	26 名

【広場「連携」プログラムの対象となる事項】公募による承認制により、実施いただきました。

①主たるテーマ:「子ども」「子育て」「寄付教育」であること
②市民に開かれた企画や活動であること(公募している等)
③設定の時間枠内で、準備や片付けが完結する企画や活動であること
④2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 30 日の間に実施する活動であること。
⑤主催団体に所属する運営メンバーが5人以上いる、非営利活動団体であること(任意団体も可)
⑥申請団体が主催者として広報、受付、実施上の安全管理、中止時の参加者への対応など、企画運営の責任を負うこと。

③地域団体による利用の受入れ
パブリックエリアである原っぱにて、地域で子育てなどに取り組んでいる団体が利用しました。「今福青い鳥保育園」による 「親子遠足」を 5 月 20 日に実施し、約 70 名の参加がありました。

2)原っぱ活動としての取り組み
①原っぱ整備に関する取り組み(大芸大との連携)
大阪芸術大学・福原教授の学生チームと連携し、2 年目にあたる今年度は、8/18 の「夏あそび」企画運営のほか、下記の整備を進めていただきました。
●花壇でのお野菜づくり、芋ほり、6 月には TCH メンバーファミリーとともに「キュウリ」「サツマイモ」「落花生」「プチトマト」「バジル」の植付けを実施。7月と11月には、野菜の収穫や芋ほり、調理を家族同士で楽しみました。
●ベンチづくり…継続的なケアスタッフとの意見交換を経て、2018 年の 2 月には木-山-木造について、実地に学ぶ「川上村木匠塾」に関わる教員・学生の手により、広場に憩いのためのベンチを制作していただきました。

②原っぱ活動の基盤整備
初年度は病害虫の駆除や雑草のメンテナンスに関するノウハウの蓄積が少なく、原っぱの整備に関してスタッフが直接トラブル対応に動く場面も多く見られましたが、今年度からはハウスキープのボランティアの中から「原っぱ整備」を集中的に行うチームを発足。広場の植栽の維持管理を精力的に進めることができました。

３・広報・ファンドレイジングの取り組み

TSURUMI こどもホスピスは、フリースタンディングな立ち位置から、地域社会に対して成そうとする主旨を丁寧に広く届けていくことで、活動の永続性にご協力いただける、個人、団体・企業が増えていくように努力しました。

1）メディアや学会等における広報・発表、自主的な発信の活動

①メディア、表彰系の取り組みとして

2017 年度も、新聞、テレビ、ラジオ、雑誌など各メディアに取り上げていただきました（計 14 回）。ハウスのデザインやコンセプトが評価され、日本建設業連合会の BCS 賞や大阪まちなみ賞第 37 回奨励賞をいただきました。

②地域社会への発信と広報活動

「一周年写真展～BesideYou　いつもそばにいるよ～」や秋のオープンハウスを開催。TCHのリアルな風景や情景を見ていただくことで、理解者を増やす活動を進めました。昨年度に引き続き、「サポーターズカフェ」（支援者向け説明会）を開催し、TCHの取り組みへの理解者を広げる活動など、広報活動を精力的に進めました。

③医療関係者に向けての広報および発表（他、講演依頼もあり）

コミュニティ型こどもホスピスを医療や福祉関係者に知っていただくための発表を積極的に行いました。

・小児保健協会学術集会ポスターセッション（6/30：市川個人）「コミュニティ型こどもホスピスの活動から見えてきたこと」
・阪奈和小児がん連携施設連絡会　緩和ケア部会（10/11）「あそび創造広場 TSURUMI こどもホスピス」
・小児緩和連携ケアカンファレンス（10/28）「あそび創造広場 TSURUMI こどもホスピス」
・大阪市立総合医療センター　こどもサポートチームカンファレンス(10/30)「LIVE　DEEP（深く生きる)を支える」
・第 15 回日本小児血液・がん学術集会シンポジウム(11/15)「子どもの生きるを支える～子どもホスピスができること」
・第1回全国こどもホスピスサミット in 横浜(2/11)「TSURUMI こどもホスピスの取り組み」

2）ファンドレイジングの活動

2017 年度は、TCHにとって、ファンドレイジング拡大元年の年になりました。新規には、大阪マラソンチャリティによる寄付獲得の基盤づくり、契約ファンドレイザー（2名）によるマンスリーサポーターや年額スポンサーの拡大、広報アンバサダー（2名）による広報促進など様々なPR＆ファンドレイジング活動を通じて、地域関係者や支援に関心ある方と関係を作りつつ、私たちの取り組みをより広げていくことができました。様々なご支援、厚くお礼申し上げます。

①継続的な寄付者の拡大の促進

TCH マンスリーサポーターの拡大を進め、以下のように継続的な寄付者が徐々に増えています。今後もこのサポーターの拡大が重点項目の一つになっています。引き続き、ご支援・ご協力ください。

〇マンスリーサポーター93 名・団体（昨年度より 61 名・団体増加）
〇賛助会員 18 名・団体（積極的な公募をしてないため、昨年度より 7 名団体減）

②一時寄付収入の拡大

□個人や団体自身からの一時的なご寄付

メディアでの広報や口コミなどにより、TCHの取り組みに共感いただき、寄付という形で応援したいという気持ちから、一時や都度寄付という形でご支援を多数いただきました。2017 年度は、238 件の一時寄付をいただくことができました。

□協力・連携による寄付活動（チャリティ・PR機会の設定による）取り組み

主に、団体有志によりチャリティ企画を実施し、募金や売上の一部をTCHにご寄付いただく形が増えてきました。

・チャリティコンサートの開催によるご寄付…大阪府医師会フィルハーモニーや融通声明研究会など
・チャリティバザーの収益のご寄付…関西大学校友会鶴見支部や宅建協会鶴見支部によるバザーや企画
・チャリティカットやチャリティ商品…チャリティカットデイを設け、その日の売り上げをTCHにご寄付
・切手収集活動による…読売アクトのグループが収集した使用済み切手を換金しTCHにご寄付

このような外部の団体のご協力によるチャリティ活動を通じた PR 活動は、子どもホスピスの存在と意義周知する機会となります。次年度以降も、こういった広報の機会をいただきつつ、チャリティ活動の拡大を進める予定です。

□社会貢献型自動販売機によるご寄付　設置合計台数は14台になりました。

□FRイベントによるご寄付：第7回大阪マラソンによるご寄付

2017 年度の新しいファンドレイジングとして、第 7 回大阪マラソンの寄付先団体としてチャリティ活動を進めました。TCHを支援しようとチャリティランナー59 人のエントリーがありました。多くのランナーにとっては、募金集め自体が初めて…という方ばかりでしたが、寄付を募る行為をきっかけに、TCH の周知に貢献いただきました。また、ボランティアやメンバー、支援者の応援のもと、大会当日は楽しい一日になりました。

3）新規財源の獲得のための活動：各種助成金の申請と財源拡大

2017 年度、TCH 開設や基盤確立に関する運営助成の他、各種プログラムに対する助成金をいただき、様々な活動を展開することができました。

・平成 29 年度重い病気を抱える子どもの学び支援活動助成（公益財団法人ベネッセこども基金）
・2017 年度ダイワハウスグループエンドレス募金（大和ハウス工業（株））
・TSURUMI こどもホスピスにおける運営体制の強化（公益財団法人日本財団）
・第7回大阪マラソン寄付金（第7回大阪マラソン大会）

※以下は、16 年度から 17 年度に渡って支援いただく助成金です。

・平成 30 年度重い病気を抱える子どもの学び支援活動助成（公益財団法人ベネッセこども基金）
・TSURUMI こどもホスピスにおける運営体制の強化（公益財団法人日本財団）

4）事業収入による財源の獲得

各店舗等にキャット端末を設置する事業のよる収入として 964 万円を得ることができました。

5）寄贈や企画協力によるご支援

17年度も、企業・団体や個人の皆さまより、様々な企画の協力や現物のご寄付をいただきました。大阪リバーサイドロータリークラブのご協力による秋祭りの実施や大阪芸術大学福原ゼミの皆さんによる夏遊びの企画など。そして、他、私たちのハウスが必要としているお茶やお菓子や飲料などご寄贈いただきました。

４・ホスピスの活動を支える人材と組織基盤の強化活動

あらゆる子どもたちにとって、多様な人との出会いは大事な機会です。そして、個々の思いや互いの弱さを補いあい、運営面をより円滑に進めていくためにも、TCH の活動にボランティアの存在は欠かせません。2017 年度は、公募は行わず、継続ボランティアの研修の充実に努めました。

1）TCH におけるボランティアマネジメントの体系と活動の概要

①ボランティアに関する基本的な考え方

TCH の理念に共感し、理解し、ともに汗を流そうとするボランティア。活動体系とボランティアになるための手順と要件を整理した上で、募集・面談・研修（養成）・活動・フォロー研修等を実施しました。

〇ファミリーサポート・ボランティア　〇フレンズ・ボランティア（①ハウスキープ②イベント）

〇テクニカルボランティア　〇スペシャルスキルボランティア

※非登録で、協賛・協力企業や地域団体が企画協力などを通じて参加してもらう単発ボランティアやメンバー家族によるメンバーボランティアの活動を実施しました。

②キャストボランティアの育成・研鑽・交流

TCH のあらゆる活動に継続的に取り組むスタッフをキャストと呼び、ボランティアで関わる「キャストボランティア」とともに、TCH の活動をつくってきました。【ベネッセこども基金、タケダ NPO サポートプログラム対象事業】

活動名	活動概要	開催日	参加者数
キャストボランティア入門研修	TCH のキャストになるための一日研修	12/17	14 名
ボランティアフォロー研修①	子どもとの向き合い方（講師：副島賢和先生）	6/18	24 名
ボランティアフォロー研修②	TCHケアの現況と年度方針説明	7/12,7/15	26 名
ボランティアフォロー研修③	TCHが目指すケアについて	10/29	14 名
ボランティアフォロー研修④	通院、入院治療を受ける子どもの実情と影響	12/3	19 名
ボランティアフォロー研修⑤	ファンドレイジング入門（講師：河合将生さん）	2/4	16 名

※他、ボランティア向けにボランティアメールニュースを 10～13 号発信し、TCH 活動の予定や報告を行いました。

□まなび支援の学生ボランティアや、学生に伴走するボランティアの養成

大阪教育大学、大阪大学、関西国際大学の「まなビバ講座」を修了した学生が、TCH を利用するメンバーに関わるボランティアとして活動しました。

④ボランティア活動の概要

キャストボランティアは、TCH の活動の様々な場面をサポートし、スタッフとともに TCH を作り見守るスタッフです。ボランティアによる活動時間は合計 1,580 時間になりました。本当にありがとうございました！

活動種別	主な活動内容	時間数
ハウスキープ	ハウスや原っぱのお掃除やメンテナンス活動	386 時間
イベント	活動の運営補助（受付、記録、各種補助）などの活動	301 時間
ファミリーサポート	子どもやファミリーのケアをサポートする専門職による活動	564 時間
クリエイティブ	映像、デザインなどクリエイティブな技術を提供	7 時間
スペシャルスキル	各種技術・芸術など、特定の技能をプログラムとして提供	8 時間
他、単発、団体連携	ビリーブの活動、他団体の協力による活動など	314 時間

2）組織運営の強化と財政面について

①法人運営（ガバナンス）の整備

□総会の開催

社員総会は、社員8名全員の承認による書面決議（6 月 30 日付け）により、事業報告・決算、事業計画案、事務局体制等について協議し、承認しました。

□理事会の開催…どの回も、会場は TSURUMI こどもホスピス

開催日	主な審議事項	出席者数
6/19	16 年度決算報告、17 年度計画・予算、事務局体制、アドバイザー等の選任	4名
10/12	17 年度上半期報告、下半期計画と補正予算、組織体制の在り方	5名

12/18	就業規則案について、次年度各種計画の方向性について	6名
2/19	18 年度計画と予算案、組織体制・賃金規定案、利用者承認の利用区分案等	6名

（2017 年度理事・監事）　代表理事　高場秀樹　副理事長　原　純一　常務理事　多田羅竜平
理事　安道照子　坂下裕子　監事　奥谷敏之

□利用者承認委員会の開催

TSURUMI こどもホスピス（TCH）は、TCH 利用を希望するご家族からのエントリー後、利用者承認委員会での承認を得た方にご利用いただきメンバーになる仕組みになっています。2017 年度は、利用者承認委員会を 3 回開催しました。

回	開催日	主な審議事項	出席者数
第 1 回	4/6	2017 年度利用区分の承認、利用者承認手続（2016 年度末持ち越し分）	3名
第 2 回	9/11	利用者の承認手続き（新規・区分変更）と区分の基準についての協議	3名
第 3 回	3/26	メンバー規約に基づいた区分基準協議と利用者の承認手続き	4名

（2017 年度　利用者承認委員一覧※2017 年度末のご所属・役職）

圀府寺　美　中野こども病院　副院長
新家　一輝　大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻　統合保健看護科学分野　小児看護学　講師
船戸　正久　大阪発達総合療育センター副センター長　医療型障害児入所施設フェニックス園長
丸　光恵　甲南女子大学　看護リハビリテーション学部　看護実践学分野　国際看護開発学領域　教授
矢野　朋子　佛教大学　保健医療技術学部　看護学科　助教

□TCHの取り組みへの助言、応援協力

TCH アドバイザー（ケア活動の助言等）　副島賢和（昭和大学教授）、清田悠代（NPO法人しぶたね）
TCHアンバサダー（広報活動の協力）　山縣敦彦、新川五月

②スタッフ体制の強化

2017 年度は、以下のマネージャー体制のもと、常勤・非常勤のスタッフを配置し、運営を推進しました。

□TCHスタッフキャスト

・ゼネラルマネージャー（全体統括）　水谷　綾
・ファミリーケアマネージャー　市川雅子（看護師）　・アシスタントケアマネージャー　大矢佳代（保育士）
・ケアスタッフ　青儀祐斗（理学療法士）、小野京子（保健師）、辻ゆきえ（看護師）、西出由実（看護師）、古本愛貴子（看護師）　・ファンドレイジング・事務スタッフ　岩井弥生、山本佳史、小林喜美子

□TCH2017 年度ファンドレイザー（委託契約）　廣川絵理花、国宝孝佳

③財政面の動向と次にむけて

2017 年度は、昨年度に引き続き、日本財団運営支援金などの助成支援やご寄付等により、ケア活動の充実を図り組織のファンドレイジングの基礎作りを進めることに注力できました。2018 年度で大型の運営助成が終了することから、継続的な寄付者の拡大と新しい財源の拡充に今後も努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。